

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
東京プリンセス賞	2019/4/23	SI	大井	1800m	スローペース	良	コース適性

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	エスケイエンジェル	牝3	54	張田	エスポワールシチー	サンデー系	コマンダーインチーフ	ノーザン系	D	C	C	C	C	C		
2	2	グレースレジーナ	牝3	54	藤本	スマートファルコン	サンデー系	アジュディケーティング	ノーザン系	D	C	B	D	C	C		
3	3	ノーブルトリトン	牝3	54	寺島	メイショウボラー	ヘイロー系	フォーティナイナー	ミスプロ系	D	D	D	D	D	D		
4	4	ラブミーピンク	牝3	54	西	タイキシャトル	ヘイロー系	ダンスインザダーク	サンデー系	B	C	B	C	C	C		
5	5	グランモナハート	牝3	54	山本聡	フリオーソ	ロベルト系	オペラハウス	ノーザン系	D	B	B	C	C	C		
	6	アストレアウイング	牝3	54	柏木	サムライハート	サンデー系	コマンダーインチーフ	ノーザン系	D	C	C	C	C	C		
6	7	リトミックグルーヴ	牝3	54	吉原	タートルボウル	ノーザン系	キングカメハメハ	ミスプロ系	D	A	D	C	C	C		
	8	トーセングーネット	牝3	54	左海	アグネスデジタル	サンデー系	クロフネ	ノーザン系	A	B	B	B	B	B	▲	
7	9	フォルレイロ	牝3	54	矢野	ローレルグレレイロ	ノーザン系	ニューイングランド	サンデー系	D	B	D	D	D	D		
	10	アークヴィグラス	牝3	54	森	サウスヴィグラス	ミスプロ系	フジキセキ	サンデー系	A	A	B	B	A	B	○	
8	11	ダバイダバイ	牝3	54	御神本	リーチザクラウン	サンデー系	ワカオライデン	ナスルーラ系	B	A	B	B	B	B	△1	
	12	ゼットパッション	牝3	54	山崎	グランプリボス	ナスルーラ系	キングカメハメハ	ミスプロ系	A	B	A	B	A	A	◎	

隊列図	見解	ラップタイム
リトミ トーセ アーク ゼット ダバイ アスト ラブミ ノーブ	<p>3歳牝馬クラシック第2弾の東京プリンセス賞。JRAの桜花賞とオークスの関係のように桜花賞組が圧倒的に優位なレースだが、ポイントは桜花賞の着順が直結しないことだろう。以下にまとめたのは過去5年の東京プリンセス賞3着以内馬。ご覧の通り、桜花賞→東京プリンセス賞の二冠は1頭も出ていないことが分かる（最後の二冠は09年ネフェルメモリー）。（中略）印象的だったのは昨年の東京プリンセス賞だろう。JRAから鳴り入りで南関東に移籍し、桜花賞で圧倒的な強さを見せたプロミストリーブだが、2戦目の東京プリンセス賞では単勝1.2倍の圧倒的な支持を受けながら勝ち馬グラヴィオーラから7馬身差の2着。桜花賞だけの結果だけなら誰も予想できなかったが、あの結果はまさに桜花賞の浦和1600mと東京プリンセス賞の大井1800mでは求められる適性が全く異なることを意味する。今年も桜花賞を圧勝したトーセングーネットが断然の1番人気に推されそうだが、過去の東京プリンセス賞の歴史を踏まえると、決してトーセングーネットの1強ではないはず。ここは1頭だけ大井1800mでこそというタイプがいるので、その馬の勝ち切りまで期待してみたい。それでは予想にいきましょう。</p> <p>本命はゼットパッションにアタマまで期待したい。（以下省略）</p>	<p>回顧</p> <p>次走狙い馬</p>
スローペース		

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	エスケイエンジェル		デビュー以来、大崩れなく走っているが、特別戦や交流戦での話。コース替わりへの魅力もなく、苦戦必至と見ていだろう。		
2	2	グレースレジーナ		前走3歳405万円以下で2勝目を挙げるも、今回はS Iで相手関係がこれまでとは相手が異なる。苦戦必至だろう。		
3	3	ノーブルトリトン		初勝利を挙げて以降、苦戦続き。鞍上は今年まだ1勝のみしか挙げていない寺島騎手。ここは参加するだけだろう。		
4	4	ラブミーピンク		東京2歳優駿牝馬2着の実績はあるものの、今年に入ってからの成績が冴えない。早熟臭の漂う血統。コース替わり自体は歓迎も、大幅な変わり身を望むのは酷では。		
5	5	グランモナハート		フリオソ×オペラハウスの血統で底力が問われる大井の中距離戦は合う。それでも未だに未勝利馬。戦ってきた相手はそれなりに骨っぽいものの、重賞ではさすがに荷が重だろう。		
	6	アストレアウイング		デビュー以来、勝利を挙げたのは大井の2歳215万円以下の1勝のみ。前走はJ R A未勝利馬との交流戦で3着に敗退。重賞では荷が重い。		
6	7	リトミックグルーヴ		ノーザンファーム×キャロット×吉原騎手というブランドはあるものの、現実的に1勝馬。前走はJ R A未勝利馬との交流戦で2着。血統的にも小回りコース向きだろう。		
	8	トーセングーネット	▲	本馬に関しては絶対的な能力が高く、今年は桜花賞以外の別路線組が低レベルなので、二冠の可能性も十分にありそう。それでも小回りコースに適性が出過ぎているのは事実で、浦和→大井のコース替わりがマイナスになってもプラスになることはない。		
7	9	フォルレイロ		未勝利で1200m中心に使われている馬。ここは参加するだけだろう。		
	10	アークヴィグラス	○	前走桜花賞では浦和1600mの8枠10番を引いてしまい、大きなハンデを背負って出走。それでも終いはよく伸びて3着を確保。勝ち馬から2秒近く離されていたが、浦和1600mは枠順バイアスが顕著なので、前走の一戦だけで勝負付けが済んだとは思わない方がいいだろう。		
8	11	ダバイダバイ	△1	その桜花賞では絶好の1番ゲートを引くも鞍上が控えてしまい、内枠のアドバンテージを全く生かせず。山本紀→御神本騎手への乗り替わりの上積みは計り知れないが、S 1で力不足な面はあり、桜花賞で馬体的に成長もなかったため、あくまでも2、3着候補と判断したい。		
	12	ゼットパッション	◎	コーナーでの反応がやや鈍く、追えば追うだけ伸びるタイプ。立ち回り力の高いトーセングーネットとアークヴィグラス（2頭ともに440~450キロ前後）とは適性の方向性が真逆で、浦和→大井のコース替わりでパフォーマンスを上げるのは間違いなく本馬だろう。		